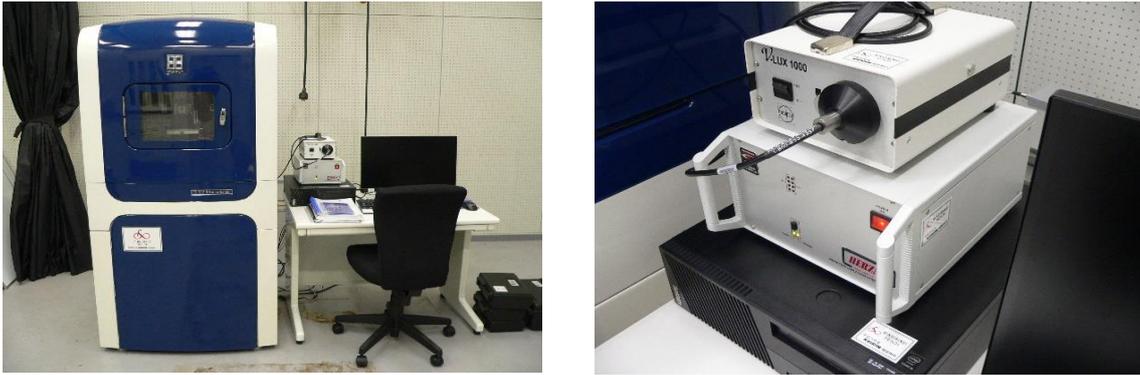


事業者名	(地独)大阪産業技術研究所								
機器名	ナノインデント								
写真									
特徴・用途	<p>ナノインデントは、ナノメートルオーダーでの材料表面の各種機械的特性を評価することができる装置である。最新の高性能型装置であり、従来の評価技術・装置では不可能であった表面改質層等、ナノスケール材料の硬さ、ヤング率、スクラッチ特性、トライボロジー特性等の評価がこれ一台で総合的かつ迅速に行える。</p>								
設置場所	(地独)大阪産業技術研究所 和泉センター								
利用状況	年月	稼働日数 (日)	依頼試験・ 依頼分析 (件)	技術指導 (件)	試験設備貸出・利用		受託研究・ 共同研究 (件)	その他 (件)	利用件数 計(件)
	平成28年11月	12	0	0	0	0	0	0	0
	平成28年12月	13	0	0	0	0	10	0	10
	平成29年1月	12	0	0	0	0	10	0	10
	平成29年2月	14	0	0	0	0	12	0	12
	平成29年3月	12	0	0	0	0	11	0	11
	平成29年4月	10	0	3	0	0	5	0	8
	平成29年5月	11	0	3	0	0	5	0	8
	平成29年6月	15	0	5	0	0	5	1	11
	平成29年7月	10	0	4	0	0	7	0	11
	平成29年8月	11	0	5	4	32	3	1	13
	平成29年9月	17	0	9	7	56	2	0	18
	平成29年10月	13	0	3	3	24	5	1	12
	平成29年11月	11	0	6	4	32	5	0	15
	平成29年12月	11	0	3	1	8	10	0	14
	平成30年1月	9	0	3	1	8	5	1	10
	平成30年2月	13	0	5	0	0	10	0	15
平成30年3月	15	0	8	3	24	8	0	19	
利用者等の声	<p>ご利用頂いた企業の方からは、以下のようなご感想を頂くことが多い。 「企業が最新型かつ多機能を有するナノインデントでの解析を実施するには、民間の分析会社に依頼するしか方法がなく、その費用も非常に高額であった。ナノインデントを企業自ら使用できることで、実験条件を幅広く変えた実験が可能となり、多くの有用なデータを得ることができるようになった。さらに、自身で操作、解析を行うため、ナノインデント法への理解が深まり、非常に勉強になる。」</p>								
補助事業概要 の広報資料	http://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/document/list/kikai/h28/pdf/28-048koho.pdf								

事業者名	(地独)大阪産業技術研究所 (旧 (地独)大阪市立工業研究所)								
機器名	温湿度・振動複合環境試験装置								
写真									
特徴・用途	本導入機器は、製品が外部環境から受ける振動ストレスに対する信頼性や耐久性を評価するための振動試験装置であり、振動試験と同時に温度と湿度の制御が可能となる恒温恒湿槽を有した複合環境試験装置である。低温環境下や高温多湿環境下における振動耐久性の評価の他、温湿度サイクル試験と振動試験を同時に実施することが可能である。								
設置場所	地方独立行政法人 大阪産業技術研究所 森之宮センター(旧 地方独立行政法人大阪市立工業研究所)								
利用状況	年月	稼働日数 (日)	依頼試験・ 依頼分析 (件)	技術指導 (件)	試験設備貸出・利用		受託研究・ 共同研究 (件)	その他 (件)	利用件数 計(件)
	平成29年2月	2	0	0	0	0	0	4	4
	平成29年3月	10	1	0	0	0	1	5	7
	平成29年4月	12	4	0	0	0	3	4	11
	平成29年5月	12	7	0	0	0	1	5	13
	平成29年6月	14	17	0	0	0	2	4	23
	平成29年7月	4	2	0	0	0	0	3	5
	平成29年8月	14	8	0	0	0	4	5	17
	平成29年9月	9	0	0	0	0	1	8	9
	平成29年10月	10	4	0	0	0	1	4	9
	平成29年11月	17	10	0	0	0	2	1	13
	平成29年12月	11	6	0	0	0	2	5	13
	平成30年1月	9	0	0	0	0	2	5	7
	平成30年2月	14	0	0	0	0	2	2	4
	平成30年3月	12	0	0	0	0	2	0	2
利用者等の声	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿圏内、しかも大阪市内に複合環境試験が実施可能な機関ができたことは利便性の向上につながる。 ・これまで山陰や関東・北陸まで複合環境試験装置を問い合わせていたが選択肢が近畿で実施可能なのはありがたい。 ・旧来の振動試験装置よりも大出力となり、また試験精度も向上したため、これまでできなかった試験ができるようになった。 ・大型の恒温恒湿槽が導入されたことにより、槽単体での使用についても検討をしたい。 								
補助事業概要 の広報資料	http://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/document/list/kikai/h28/pdf/28-049koho.pdf								